

科目名 Course Name	教職概論（経営的事項、地域との連携、学校安全） Introduction to Teaching Profession			ナンバリング No.	K4-001		
年次	2年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	松崎勇人						
連絡先(質問等)	本館2階研究室（湯沸かし室前）、火曜を除く昼休みや空き時間						
必修/選択	選択（幼稚園教諭養成課程必修）						
関連 DP	DP2						
授業の概要と到達目標	<p>教育法規に基づきながら教員の存在意義や役割、その資質能力、職務内容や義務、チームで学校運営をすることの大切さを整理し、学生自らが自己の教職への適性を自覚し高める。学校経営や学校と地域との連携、学校安全への対応の基本を整理する。</p> <p>①教員の存在意義や役割、職務内容や義務、チームで学校を運営することの意味を述べられるようにする。 ②教員の資質能力を知り、自己の適性を高めるために必要なことを述べられるようにする。 ③学校経営、学校と地域との連携について述べられるようにする。 ④学校安全への対応の基本について述べられるようにする。</p>						
授業の方法	プリントと黒板を使っての説明を中心とした講義を行う。教育法規について分かりやすく説明する。また、内容のポイントで質問をする。講義者が、学生の述べた答えを尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。						
学習成果	L01						
	L02	<p>①社会的使命を自覚して教員として働くことができる。 ②地域と連携して学校組織の中でどのように働くべきかを考察して実践できる。 ③より良き教師とはどのような存在か、どのような努力をすべきかを考察して実践できる。 ④学校安全のために配慮することができる。</p>					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	テストは成績発表時に返却する。						
教科書/参考図書	適宜自作プリントを配布する。						
履修上の留意点やルール等	休まないこと。私語をしないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。積極的に質問することを望む。こどもフィールド教職履修者のみ受講可。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回180分とする。						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	最高水準は、講義者の話を集中して聞き、質問に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。		20		
レポート/作品					
発表					
小テスト					
試験	基本的事項について述べられるか筆記試験で確認する。		80		
その他					
合計			100		

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス、教育法規における教員の位置づけ
	事前・事後学習	教職に関わる教育法規について整理する。
2	授業内容	公教育の目的と教員の存在意義
	事前・事後学習	教員の使命について整理する。
3	授業内容	教員の職責と職務内容
	事前・事後学習	職責と仕事の内容を整理する。
4	授業内容	教員の身分保障と義務
	事前・事後学習	教員の身分保障と義務を整理する。
5	授業内容	教員の種類と職階
	事前・事後学習	それらの要点を整理する。
6	授業内容	教職観の変遷（聖職者的教師像と労働者的教師像）
	事前・事後学習	教師像の特徴を整理する。
7	授業内容	教職観の変遷（専門職的教師像）
	事前・事後学習	教師像の特徴を整理する。
8	授業内容	教員に求められる今日的役割と資質や能力、教員としての適性の理解と進路選択
	事前・事後学習	教員に要求される資質や能力を整理し、自己の適性を判断する。
9	授業内容	多様な専門家と協働するチーム学校運営
	事前・事後学習	その図式と PDCA を整理する。
10	授業内容	教育委員会、学校経営、校務分掌の基本
	事前・事後学習	組織的つながりを整理する。
11	授業内容	学校教育活動の年間の流れと学校評価（PDCAサイクルの重要性）
	事前・事後学習	その PDCA の重要性を考える。
12	授業内容	学級経営の基本、教職員と学校外の関係者との連携や協力、学校と地域との連携
	事前・事後学習	連携と協働がなぜ大切なのか考える。
13	授業内容	地域と連携する学校教育活動の意義と方法、開かれた学校づくり
	事前・事後学習	その要点を整理する。
14	授業内容	学校で発生する事故等と学校安全の必要性
	事前・事後学習	それらの対策のポイントを整理する。
15	授業内容	学校安全への対応（安全管理、安全教育の具体的取り組み）
	事前・事後学習	それらの対策について考える。